

出 発 点

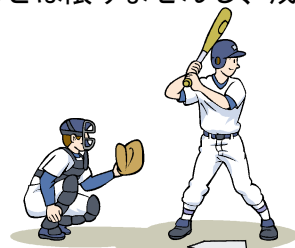
第7号（1年学年通信）

令和3年8月25日 学年主任 佐野修一郎

休業中、部活動においては、毎日の練習に全力に取り組んだことと思います。私も、剣道部顧問として、中体連大会に燃えました。もちろん、勝つことは大切ですが、負けることから得ることは多いと思います。「あの時こうしていれば」「もっと練習していれば」、猛暑の中、日々練習した者だけが、こういった課題を得ることができるものと思いました。必ず、これからの人生に、これらの経験は活きるのです。

また、夏休みの宿題だけでなく、家庭学習など学習活動においても、2学期に向けて、そして将来に向けてがんばってくれたと思っております。しかし、直ちに結果は出るとは限りませんし、成功するためには努力と失敗、そして、挑戦が必要です。

少し古い話ですが、平成25年8月21日に、ニューヨーク・ヤンキースにいたイチロー外野手が、日米通算4000本安打を達成しました。その時のインタビューでイチロー選手は、『いい結果を生んできたことを誇れる訳ではない。4000本のヒットを打つために、8000回以上は悔しい思いをしてきている。そのことと常に、自分なりに向き合ってきたことが事実なので、誇れるとしたらそこではないかと思う』という趣旨のことを言っています。



どんなに努力しても、勝てなくて負けることや、成功できず失敗することがあります。負けても、失敗しても、それを乗り越える努力と勇気が必要なのです。学習でも、部活動でも、やらなければ結果は出ません。いかに自分の夢に近づけるか。そのために努力するのです。

1年生の皆さん、長くて忙しい2学期が始まりますが、「高い志をもつ」「夢や目標をもつ」と、それに向けて努力することを忘れないでほしいと思います。

ちなみに、新学期早々に自主勉強ノートを提出した生徒が11名もいました。鈴木玲美さんはP151、高山大舞くんはP89、佐野七海さんはP72、石川桃絵さんはP35もやってありました。全員、複数ページやっていたので、夏休み中にしっかり取り組んでいたのだと思います。

良い新学期のスタートです。新学期は「サイ」ではなく、「ゾウ」を心掛けてください。

※ 「何々しなサイ。」から「何々するゾウ。」と行動を変えること。

Live as if you were to die tomorrow. Learn as if you were to live forever.

「明日死ぬかのように生きよ。永遠に生きるかのように学べ。」

マハトマ・ガンジー（本名：モーハンダース・カラムチャンド・ガンジー）

1914年に、南アフリカでインド人の人権を向上させたことにより、ガンジーは弁護士、そして社会活動家としての評判を確立しました。ガンジーは、その身を非暴力・不服従運動を通してインドの独立に捧げ、その思想は最終的に1947年のイギリスからの独立へとつながっていきました。ただ、その直後に狂信的なヒンディー教徒に暗殺されてしまいます。



上記のガンジーの言葉は、一見すると矛盾しています。「明日死ぬかのように生きよ。」は独立運動の中で、「1日1日を大切にしよう。」という生き方をしていた彼らしいものです。しかし、「永遠に生きるかのように学べ。」は、「明日死ぬかもしれないのに？」と思ってしまいます。そこで、私なりの解釈ですが、「明日死ぬかも」と思ったら「どうせ死ぬんだ。」と日々を大切にしない人がいるかもしれません。だからこそ、「永遠に生きるかのように」です。明日死ぬとしても、学ぶ姿勢（何かを成そうとする姿勢）が必要だということなのです。やはり、この言葉も1日1日を大切に生きるように促す言葉なのです。

☆礼儀は大切

リオ・東京とオリンピック2連覇をした柔道の大野将平選手は、光村図書の道徳に掲載されています。それは、リオ・オリンピックで金メダルを決めた後、ガッツポーズをするのではなく、きちんと礼をして試合場を去って行ったからです。その時の心情をインタビューで、こんなふうに答えています。

「相手がいる対人競技なので、相手を敬っているの、（ガッツポーズをせずに）冷静に綺麗な礼ができたのではないかと思います。日本の心を見せられる場でもあるので、気持ちを抑えられたと思います。」

その態度とインタビューによって、彼は世界中から尊敬される柔道家となったのです。強いと思われる柔道家は多いと思いますが、尊敬される柔道家は少ないと思います。

また、体操の個人総合で橋本大輝が金メダルを取った時もガッツポーズよりも「あいさつ」をしました。今回の東京オリンピックで知ったのですが、これは、体操競技では、最初と最後の「あいさつ」を忘れると減点（-0.3点）になるからなのです。スポーツは競い合いをするものです。だからこそ、リスペクト（思いやる気持ち）が大切なのです。そのリスペクトを態度で表すのが、「あいさつ」などの礼儀なのです。芝川中の1年生諸君にも気持ちの良い「あいさつ」と「返事」を心掛けて欲しいです。



☆あきらめない気持ち

東京オリンピックで、私が最も応援していたのは、女子レスリング50kg級の須崎優衣選手です。全てテクニカルフォール勝ちで、相手に1ポイントも与えずに優勝したのにはびっくりしましたが、彼女は、オリンピックに出場できないはずだったのです。この階級には、登坂絵莉選手というリオのオリンピックで優勝した第一人者がいました。また、この登板選手のライバルとされていた入江ゆき選手もいて、天才と言われていた須崎選手ですが、決して平坦な道ではなかったのです。

登板選手が膝の故障で苦しむと、須崎選手と入江選手の一騎打ちの様相になりました。順調に若い須崎選手が勝ち続けていた2018年に、入江選手に敗れ、世界選手権代表の座を奪われます。その世界選手権で入江選手が優勝すれば、東京オリンピック代表の座は入江選手で決定することになっていました。この階級で、日本の選手はほとんど負けたことがありません。須崎選手は、後のインタビューであきらめかかっていたと言っています。ですが、コーチから「0.01%でも可能性があったらあきらめてはいけません。」と言われ、オリンピックに向けての猛練習をするのです。すると、世界選手権で入江選手が3回戦負けという番狂わせが起き、その後、アジア選手権に出場した須崎選手が優勝してオリンピック出場枠を獲得し、出場することができたのです。

彼女の圧倒的な快進撃は、この2選手との切磋琢磨と追い詰められてもあきらめずに練習に取り組むことができた精神力によるものだと思います。まさに、天才とは努力してこそなのだと考えさせられ、須崎選手の涙に感動しました。



9月の予定

1日(水)	夏休み課題テスト、専門・中央委員会	15日(木)	三者面談(～20日)
7日(火)	生徒集会、全校練習Ⅰ	20日(月)	敬老の日
10日(金)	生徒会役員選挙⑥	21日(火)	全校練習Ⅲ
11日(土)	PTA奉仕作業	23日(木)	秋分の日
13日(月)	部活動なし(～15日)	24日(金)	芝友祭体育の部準備⑤⑥弁当持参
14日(火)	学年集会、全校練習Ⅱ、	25日(土)	芝友祭体育の部
16日(木)	定期テストⅡ	27日(月)	代休日(芝友祭体育の部)